

明治四年・岡山県における

農民騒擾に関する裁判資料（五・完）

中山光勝

目次

解題

(Ⅰ) 岡山県伺備前国磐梨郡田原下村農阿部清太郎発意ニテ同村農近藤嘉十郎外六名明治四年水災ニテ年貢上納シ難キ歎願及フ可クト他村ヲ誘引シ為メニ各郡村々動揺為シタルニ付処刑方ノ件

- (一) 明治五年十月二十四日付・司法省指令
- (二) 明治五年六月日欠・岡山県処刑伺……
……以上第一回第六十二号
- (三) 阿部清太郎外七名口供書

(Ⅱ) 岡山県伺備前国磐梨郡松木村農黒田小太郎外七名前件(Ⅰの事件——中山註)ニ関シ願書ヲ執筆シ或ハ暴動ニ附従為シタルニ付処分方ノ件

- (一) 明治五年十月二十四日付・司法省指令
- (二) 明治五年六月日欠・岡山県処刑伺
- (三) 黒田小太郎外七名口供書………以上第二回第六十三号

(Ⅲ) 岡山県伺備前国赤坂郡南佐古田村農清野弥代次外九名田畑改正ニテ難渋ニ付歎願ス可ク多人数寄合遂ニ大里正山口村小坂石平外二名宅へ押懸家財打碎又ハ焼捨乱暴及ヒシニ付処刑方ノ件

明治四年・岡山県における農民騒擾に関する裁判資料（五・完）（中山）

明治四年・岡山県における農民騷擾に関する裁判資料(五・完)(中山)

- (一) 明治五年十月二十四日付・司法省指令
- (二) 明治五年六月日欠・岡山県処刑伺
- (三) 清野弥代次外九名口供書……………以上
第三回第六十四号

(IV) 岡山県伺備前国津高郡河内村之内山条農吉村新三外七名貢米十分一納願出可ク多人数寄合遂ニ同郡辛香村里正中山辰四郎外二名宅へ押懸ケ家財打碎又ハ放火及ヒシニ付処刑方且新三八同囚破牢ノ企アルヲ密告セシニ依リ死一等ヲ減ス可キヤノ件

- (一) 明治五年十月二十四日付・司法省指令
- (二) 明治五年六月日欠オヨビ同年九月二十四日・岡山県処刑伺
- (三) 吉村新三外七名口供書……………以上
第四回第六十五号

(V) 岡山県伺備前国上道郡百枝月村農塩見虎三郎外四名近郷村々動揺ヲ聞同断出願ス可ク寄合出張役人へ歎願書差出シ他村ノ暴動ニ関セサルニ依リ無罪タル可キヤノ件

- (一) 明治五年十月二十四日付・司法省指令
- (二) 明治五年六月日欠・岡山県処刑伺
- (三) 塩見虎三郎外四名口供書……………以上
第五回本号掲載

(V) 岡山県伺備前国上道郡百枝月村農塩見虎三郎外四名近郷村々動揺ヲ聞同断出願ス可ク寄合出張役人へ歎願書差出シ他村ノ暴動ニ関セサルニ依リ無罪タル可キヤノ件

- (一) (明治五年十月二十四日付・司法省指令)

隣国動揺ノ際一村二十余人同行歎願スト雖モ虎三郎外二人ハ其願ノ発意迄ニシテ多衆ヲ糾合スルノ情無ク官吏ノ説諭ヲ遵奉シ衆人ヲ帰村セシメ拳村暴動ニ響応スル者無シ唯魁首トナリ里正ヲ経スシテ出願スルヲ以テ

雑犯律不応為重ニ擬シ杖七十情憫諒スヘキヲ以テ
贖罪金五両一分 塩 見 虎三郎
同上ノ從一等ヲ減シ杖六十

贖罪金四兩二分宛

三宅 喜佐治

備前国上道郡百枝月村百姓

塩見 虎三郎

申三十六歳

新条例兇徒聚衆ノ從ニシテ牆屋ヲ毀ツ者不応為重杖七十

懲役七十日

久保 石松

小隊長馬ヲ馳セ鎮撫号令スルヲ見テ醉狂ニ乗シ戲慢

無狀之ヲ妨クル者

雜犯律不応為重ニ擬シ杖七十

懲役七十日

三木 桂次郎

縣

青木

松本

松岡

江藤

不明

(一)(明治五年六月日欠・岡山県処刑伺)

扣

備前国上道郡百枝月村百姓塩見虎三郎外四人御仕置

伺書

岡山県

備前国上道郡百枝月村百姓塩見虎三郎外四人吟味仕候処
左之通

明治四年・岡山県における農民騒擾に関する裁判資料(五・完)(中山)

備前国上道郡百枝月村百姓

三宅 喜佐治

右塩見虎三郎義去辛未年五月洪水ニ而村方之内岡分ハ格別難渋ニ付村内百姓三宅喜佐治塩見美喜三其外へも申談上道郡冲新田三番住居郷佐役藤原敏造へ出願致し度尤惣代^与して右三人可參考候処右岡分之者二十七八人參度申出一同南之方下筋^立向ケ冲新田へ參候処其節近郷村々人氣不穩処より岡分之者出訴致し候由申一時ニ騒立多人數北之方上郷へ運轉村吏之宅乱暴致し候ニ立当り候全虎三郎發意ニ而出願致し候処より里村々動揺乱暴ニ及候段不屈ニ候得共虎三郎おゐてハ冲新田九番ニ而同人并喜佐治美喜三惣代^与して居残り其外之者共為引取置同所出張之役人へ歎願書差出し直ニ引取帰村致し候岡分おゐてハ□□□村々動揺ニ関り不居申且歎願之趣も筋立候義ニ付其情諒察し無罪ニ可有御座哉

但動揺之村々重立候者共未タ相分不申候

(以上十八字朱書——中山註)

申四十四歳

塩見 美喜三

申二十七歳

し及乱暴夫ヨリ一同ニ随ひ同郡竹原村檜原村江押行同日
昼九ツ時頃帰宅以堂し候右様乱暴および候始末不埒ニ付
如何処置可仕哉

右三宅喜佐治塩見美喜三義村内百姓塩見虎三郎ヨリ村方
難渋ニ付意願之示談ニ同意致し村方之内岡分之者二十七

但右畠中太郎宅乱暴重立候者未タ相分レ不申候(以
上二十一字朱書——中山註)

備前国上道郡西祖村百姓

三木 桂次郎

申五十六歳

八人同道ニ而去辛未年十二月三日晚上道郡沖新田三番住
居郷佐役藤原敏造江罷越候節近郷村々一時ニ動揺致し上
郷へ押行村吏之居宅乱暴致し候ニ立至リ候全虎三郎談示
ニ同意致し岡分之者出願致候処より里村々動揺乱暴ニ及候
段不埒ニ候得共沖新田九番江罷越虎三郎始兩人共惣代与
して居残其外之者共為引取置同所出張之役人江歎願書差
出直ニ引取帰村致し候岡分おゐてハ村々動揺ニ関リ不居
申且歎願之趣も筋立候義ニ付虎三郎同様無罪ニ可有御座
哉

備前国上道郡西祖村百姓

久保 石 松

申四十七歳

右久保石松義去辛未年十二月三日朝近郷村々動揺致し候
人数ニ加リ上道郡内ヶ原村江罷越同村里正畠中太郎方へ
押懸多人数乱暴致し候節俱々罷越堀之瓦并干大根等切落

右三木桂次郎義去辛未年十二月三日朝近郷村々動揺之節
立出上道郡内ヶ原村辺より里多人数ニ相加リ同郡竹原村へ
押行同所ニ而飲食致し夫ヨリ同郡檜原村之内土橋之上ニ
而為鎮撫出張致し居候小隊長桜井鑑吉乗馬江登付候ニ付
馬上より突倒し候処又候起上リ同様登付同人着服ヲ損し
候右粗暴之始末不埒ニ付如何処置可仕哉
右之通ニ御座候御仕置之義別帳口書四冊并手続書一冊共
相添此段相伺申候已上

明治五年壬申六月 岡山 県

岡山
県印

(三)(塩見虎三郎外四名口供書)

扣

備前国上道郡百枝月村百姓塩見虎三郎口書

岡山県

備前国上道郡百枝村百姓

塩見 虎三郎申口

申三十六歳

先般村方之者共出願仕候始末有体申上候様御吟味ニ御座候

私儀農業専らニ而高八石所持罷在候然ル処百枝月村ハ字上分中分岡分与三組ニ相成居申私義ハ岡分ルて候昨辛未年五月洪水ニ而大川堤破壊田畑場所ニ寄七尺余も砂石流込又ハ家財諸道具共流失仕甚難渋仕候者も不少御座候処同七月下旬ヨリ堤田畑共御譜請御取懸リ男女老幼共日々右夫役相勤候付右失米前借致し扶持米ニ仕度段其節村役人^五速ニ願出置候得共御渡し無之其後九月十二日限御普請相済候付午後度々御催促申上候処右申奉置候得共兎角御渡無之旨村役人ヨリ被申聞相運ひ不申且荒所御取調之上田方ハ皆荒ニ被仰付候得と母畑方ハ半免上納ニ被仰付加之年中諸人用米^{〇〇〇〇}持主ヘ

割懸仕余之分一同之通無毛地も高掛リニ相成甚難渋差迫リ村役人^五度々歎願い堂し候得共不相叶処より私義兼而御熟ニも有之候郷佐役藤原敏造殿上道郡冲新田三番^五御住居候付右難渋之義歎願仕度旨心付村内百姓三宅喜佐治塩見美喜三^五申談候処同意致候ニ付同年十二月三日夕村内岡分之者而已ニ二十七人右喜佐治宅^五寄合候処ヨリ右藤原敏造殿^五出願之義一同^五申談候処何れも同意ニ付俱々歎願之趣相認メ尤一同之者参候而ハ不宜ニ付右美喜三喜佐治私共三人惣代^五して参候旨申聞候処右三人之難渋ニも無之一同之義ニ付是非共同道参候様一同ヨリ申出候付翌四日曉右二十七人^五之者共立出途中ニ而右藤原敏造殿ハ冲新田九番ヘ御出張之由承リ同所ヘ向参候処御同人御出張無之同郡大里正冲新田外七番角南作五^〇殿御出張有之ニ付右歎願之趣申上候処無程御官員様御出張候付喜佐治美喜三私共三人居残り其外之者共ハ引取候様被申聞候付一同引取らせ置私始三人罷在候処監寮掛権大属大嶋守人様租税掛窪田升三様御廻村ニ而御出ニ付右歎願之趣申上候処一応御聞届追而御処置も可有之旨被仰聞候付直ニ同日七時頃帰村仕候処同晩ヨリ近郷同郡寺山村内ケ原村外村々之者共動揺仕内ケ原村里正畠中太郎宅乱暴仕夫ヨリ同郡

槽原村へ押懸ケ居申旨承り実ニ相齟申候私方村方岡分

之者共ハ其俣婦村仕右動揺ニ者不加義ニ御座候前条九

番三而一同空腹相成村役人へ願上一飯ヲ請ひ其後飯料

私入申候御普請夫米も一同之通去暮御渡し相成頂戴仕

候義ニ御座候

右之通申上候付被仰聞候ハ実以難渋情願之筋有之候得ハ

老人立穩ニ其筋々江可申出一同之者押而参候旨申立候得

ハ其節処置振も可有之処無其義村内一同之者共出願致候

処ヨリ其風波及他村之者共同意与ハ不相聞候得共村々動

揺村吏之居宅及乱暴候ニ立至リ其節他村江も該示候義可

有之与再応御吟味ヲ被候得共前条之外差感候義更ニ無御

座頑愚之処より里前後不并不図御見分奉備候段申上候処右

様村内之者同道出願致候始末不埒之旨御吟味ヲ受申披キ

無御座奉恐入候

右之通相違不申上候已上

明治五年壬申五月十四日

塩見虎三郎

断獄御役所

扣

備前国上道郡百枝月村百姓

三宅喜佐治
塩見虎三郎

口書

岡山県

備前国上道郡百枝月村百姓

三宅 喜佐治

申四十四歳

塩見 美喜三

申二十七歳

右申口

先般村方之者共出願仕候始末有体申上候様御吟味ニ御座候

私共義農業専らニ而喜佐治義高拾石三斗美喜三義高拾

四石所持罷在候然ル処私共義村方字岡分与申所ニ而昨

辛未年五月洪水ニ而大川堤破壊田畑場所ニ寄七尺余も

砂石流入又ハ家財諸道具流失仕甚難渋仕候者も不少御

座候処同七月下旬ヨリ堤田畑并御普請御取懸リニ付男

女老若共日々右夫役相勤候付右夫米前借致し扶食ニ仕

度段村役人江速ニ願出置候得共御渡無之且荒所御見分

之上田方ハ皆荒ニ被仰付候得共畑方ハ半免上納ニ被仰

付加之年中諸入用米□□持高江割掛仕候分無毛地も

一同之通高掛ニ相成甚難渋差迫村役人江度々歎願致候

得共不相叶処ヨリ村内御百姓塩見虎三郎義兼而御懇意

ニも有之候郷佐役藤原敏造殿上道郡中新田三番江御住

居ニ付右難渋之義歎願仕度旨私共江申談候付同意仕同

年十二月三日夕村内岡分之者而已二十七人喜佐治宅
江寄合虎三郎ヨリ右藤原敏造殿江出願之義一同江申談
候処何連も同意仕候ニ付俱々難渋之趣相認虎三郎私共
三人惣代^与して参り候様申聞候処右三人者難渋ニも無
之一同之義ニ付是非共同道参候様一同ヨリ申出候付翌
四日晩右二十七人^江之者共立出途中ニ而右藤原敏造殿
ハ冲新田九番^江御出張之由承リ同所^江向ケ参り候処御
同人御出張無之同郡大里正冲新田外七番角南作五〇殿
御出張有之ニ付右歎願之趣申上候処無程御官員様御出
張ニ付虎三郎私共居残り其外之者共ハ引取候様被申聞
候付一同引取らせ置右三人罷在候処監察掛權大属大島
守人様租税掛窪田升三様御廻村ニ而御出候付右歎願之
趣申上候処一応御聞届追而御処置も可有之旨被仰聞候
付直ニ同日七ツ時頃帰村仕候処同曉より近郷同郡寺山
村内ヶ原村分村々之者共動揺仕内ヶ原村里正畠中太郎
宅乱暴仕夫より同郡檜原村江押懸ヶ居申旨承り実ニ相
驚申候私村方岡分之者共ハ其俣帰村仕右動揺ニハ不相
加義ニ御座候前件九番ニ而一同空腹相成村役人江願上
一飯ヲ請ひ其後飯料払入申候御普請夫米者去暮御渡し
相成頂戴仕候義ニ御座候

右之通申上候付被仰聞候ハ実以難渋情願之筋有之候得者

明治四年・岡山県における農民騒擾に関する裁判資料(五・完)(中山)

老人立穩ニ其筋々^江可申出一同之者押而参候旨申立候得
ハ其節処置振も可有之処無其義村内一同之者とも出願致
し候処ヨリ其風波及い堂し他村之者共同意^与ハ不相聞候
得共村々動揺村吏之居宅及乱暴候ニ立至リ其外見聞以堂
し居申義有之候ハ、可申出旨再応御吟味ヲ被候得共前条
之外差感候義更ニ無御座段申上候処右様村内之者同道出
願致し候始末不埒之旨御吟味ヲ受申披無御座奉恐入候
右之通相違不申上候已上

明治五年壬申五月十四日

三宅 喜佐治
塩見 美喜三

断獄御役所

扣

備前国上道郡西祖村百姓久保石松口書

岡山県

備前国上道郡西祖村百姓

久保 石松申口

申四十七歳

先般村々一同動揺仕候始末有体申上候様御吟味ニ御座候

私義農業専らニ而高四石三斗所持仕居申候然ル処去辛未年十二月四日晝近郷村々動揺仕村方之者共一同立出候付私義も無拠罷出候処上道郡内ヶ原村郷中法性寺屹と申処^江多人数寄集罷在夫ヨリ山之南内ヶ原村^江一同下り候付俱々罷越候処同村遭造家ヨリ酒持出し私義少々酌飲仕候処大酔仕候夫ヨリ多人数之者同村里正畠中太郎方^江押懸ヶ候付私義も附随ひ跡より罷越候処最早門内ハ多人数ニ而遁入候事不相成乱暴相働居候付私義酔中ニ乗し裏手へ廻り堀之瓦二十四五枚取投捨又者長屋之軒ニ釣有之干大根五懸ヶ程鎌ニ而切落し申候多人数之者共家財諸道具共持出し門前ニ而焼捨罷在候得共私義ハ携り不申候夫より一同ニ随ひ同郡竹原村通りより里栖原村^江出同村ニ而踏留居申処同五日朝租税懸り児嶋復三郎様角藤新八郎様窪田升三様御出張ニ而早々引取願筋有之候ハ、惣代ヲ以穩ニ申出候様御申聞被成一同引取候付私義も同日九ツ時頃引取帰宅仕候義ニ御座候右之通申上候付被仰聞ハ実以難渋歎願之筋有之候得ハ穩ニ其筋々^江可申出之処無其義多人数ニ与し村吏之宅^江押懸俱々手ヲ着暴動致し候上ハ其節先立候者見覺へ或ハ姓名等伝聞候義可有之与再応御吟味ヲ被り候得共前条之外差感候義更ニ無御座段申上候処右様多人数ニ与し村吏之

居宅へ押懸俱々手ヲ着暴動致し候始末不埒至極之旨御吟味ヲ受申披無御座奉恐入候

右之通相違不申上候已上

明治五年壬申五月十四日

久保 石松

断獄御役所

扣

備前国上道郡百枝月村百姓三木桂次郎口書

岡山県

備前国上道郡百枝月村百姓

三木 桂次郎申口

申五十六歳

先般村々一同動揺仕候始末有体申上候様御吟味ニ御座候私義農業専らニ而高拾七石所持仕居申候然ル処去辛未年十二月四日晝村方之内岡分之者共出訴仕候趣承り村方之者共立出候付私義も同朝五半時頃上道郡西大寺村迄参候処右岡分之者共罷帰居申ニ付私義も同道帰村仕居候処尚又同郡内ヶ原村郷中法性寺屹与^江申山^江近郷村々

之者寄集罷在候旨承り罷越候処一同之者共同郡内ヶ原
村^与里同郡竹原村^江向押行候付跡よ里附随罷越同村之
内酒造家よ里酒持出し候付多人数俱々酒飲候処私義大
酔仕前後忘却一同之者ニ随ひ同郡檜原村へ出候処同村
土^口之上ニ而小隊長桜井鑑吉様一同之者^江早々引取候
様御制取被為成候節私義酔中ニ而御同人様御馬^江登付
候処突倒され又起上り同様登付候処御着服少々損し候
由夫ヨリ同村酒造家ニ而又候酒飲候処益熟酔仕帰路難
覚翌曉帰宅仕其後前条之趣承知仕奉恐入候義ニ御座候
右之通申上候付被仰聞候ハ村々ヨリ多人数押行候付相加
り候義ニ候ハ心得方も可有之筈無其義衆人ニ先立御出
張役人^江対し粗暴之挙動有之上ハ尚暴動致し候義可有之
^与再応御吟味ヲ受候得共前条之外差感候義更ニ無御座段
申上候処右様役人^江対し粗暴之挙動致し候始末不埒至極
之旨御吟味ヲ受申披無御座奉恐入候
右之通相違不申上候已上

明治五年壬申六月四日

三木桂次郎

断獄御役所